

令和 7 (2025) 年度 登録コンクリート圧送基幹技能者認定試験  
合格基準および総評について

令和 7 年 10 月 31 日

登録コンクリート圧送基幹技能者認定委員会

【合格基準】

択一式問題	25 問, 50 点満点
計算問題	5 問 (解答数計 15 題), 30 点満点
記述式問題	問題 1 (800 字), 13 点満点
	問題 2 (400 字), 7 点満点

- ① 択一式問題の得点数が 30 点以上
  - ② 計算問題の得点数が 14 点以上
  - ③ 記述式問題 1 の得点数が 7.5 点以上
  - ④ 記述式問題 2 の得点数が 3.5 点以上
- 以上①～④の得点数をすべて満たした者を合格とする。

申込者数 : 71 名 (うち, 講習完了者数 : 57 名, 受験者数 : 69 名)

合格者数 : 53 名

合格率 : 74.6% (対申込者数)      ・ ・ ・ 参考 : 令和 6 年度の合格率は 71.8%  
令和 5 年度の合格率は 70.8%

【総評】

本年度 (令和 7 年度) の登録コンクリート圧送基幹技能者認定講習は, 千葉県船橋市での開催となりました。会場, 講師陣, 事務局, そして受講者・受験者の皆様のご協力もあり, 試験を含めた全日程を, 体調不良者を出すことなく, 無事に終えることができました。感謝申し上げます。

さて, 本年度の講習は, 例年にも増して熱心に取り組まれていました。コンクリートポンプ圧送マニュアルと講習テキストを事前配布し, 予習や事前課題に取り組めるよう配慮もしましたが, 75%を超える受講者が自主的に予習を行い講義に臨まれていました。また, 全圧連ホームページに「過去問題」を掲載し, 試験対策が行える環境を整えています。80%を超える受講者がこれに取り組まれたようです (以上, アンケート結果より)。記述式問題を事前提出した受講生が 16 名, 初日の受付で提出した受講生が 15 名に上り, 例年にも増して多くの方が事前対策を行っていました。このような方々の多くが「合格」を勝ち取っています。

本年度の合格率は, 昨年度、一昨年度よりも高い 74.6%となりました。事前準備や受講時に見られた「やる気」が合格率を押し上げたものと判断しています。不合格となった方々の中には, 一部の問題はよくできていても, 別の問題ができておらず, 残念ながら合格基準に達しなかった方がいます。資格認定には, すべての講習内容についての理解を必要として

おり、この点を踏まえて、再度のチャレンジを期待しています。

各試験問題の答案を分析した結果について、認定委員会の見解を以下にまとめましたので、今後の参考にしてください。

・ 択一式問題（50点満点）

難易度を変えていないため、例年と同じ30点以上を合格としました。平均点は36.4点／50点で、これまでと変わらない値でしたが、数名の「できなかった人」が平均点の上昇を抑えた格好になっています。

個別に分析しますと、車両に関する法令と原価管理に関する設問で正答率が4割前後とやや低く、経営者に近い立場にいる皆様には、今一度理解を深めていただきたいと思います。また、コンクリート材料に関わる設問の一部の正答率も4割程度と低く、コンクリートを取り扱う技能者として復習をお願いしたいと思います。先端ホース・ドッキングホースに関する設問も正答率が5割程度と低く、ドッキングホースに圧力区分があることをコンクリートポンプ圧送マニュアル等で再認識していただき、破損や暴発の撲滅に努めていただきたいと思います。倫理に関わる設問は、「抵触しないものはいくつあるか」という新しい形式で出題しました。多少混乱されたかもしれませんが、正答率は5割程度と高くはありませんでしたが、倫理ある技能者として回答がなされていると判断しました。③の流動化剤の後添加を現場監督に「要望する」は、倫理を無視した身勝手な行為ではなく、倫理ある技能者として適正な行為と受け取れます。流動化剤については、まずは、現場監督に要望し、現場監督が発注者と協議した上で使用することになります。「要望する」は間違った行為ではありません。

なお、問題7の選択肢(2)の文章中に誤字がありました。深くお詫びいたしますとともに、再発防止に努めます。

問題7 コンクリートのフレッシュ性状、圧送性、施工後に生じやすい事象に関する次の記述のうち、**不適当なもの**はどれか。

- (1) プリーディング水が多いコンクリートは、パイプレータを通常よりも長時間かけると、材料分離を抑制し、硬化後に鉄筋の下部や大きい粗骨材の下に空洞が発生する危険性が低下する。
- (2) 材料分離が生じたコンクリートは、圧送性中に骨材の噛み合いが生じて、閉塞の危険性が高まる。
- (3) 単位容積質量が2.35kg/m<sup>3</sup>以上となる高強度コンクリートは、コンクリートポンプ車のブームにかかる負荷が大きくなるため、ブーム折損事故の危険性が高まる。
- (4) 暑中コンクリートの施工では、コンクリートの凝結時間が早くなるため、コールドジョイントを発生させないように打重ね時間間隔を短くする必要がある。

【正解：(1)】

・計算問題（30点満点）

例年と同じ14点以上を合格としました。平均点は、17.8点／30点でした。

残念ながら、コンクリートの配合計算に関する一部の設問の正答率が10%以下と著しく低いのが特徴的でした。各材料の単位量の求め方を再度復習してください。一方、圧送計画に関する計算に関する設問については、概ね7割以上を超える高い正答率となりました。ただし、例年と同様、輸送管の仕様（肉厚）の選定にかかわる設問の正答率は15%程度と低かったのが残念です。予測される管内圧力に応じた適切な仕様（肉厚）の輸送管を選定し、輸送管の破裂やそれに伴う物損・人身事故の撲滅に努めていただきたいと強くお願い申し上げます。

実務において安全な作業を行っていただくためにも、計算の知識は必須です。登録基幹技能者に必要な計算の知識は、講習を受けただけで習得できるものではありません。普段の実務でおさらいすること、過去の問題や今回の講習で配布された事前課題をしっかりと理解すること、で正答を導けたはずです。試験の可否に関わらず、これらの問題に何度も取り組み、しっかりと身に着けていただきたいと思います。また、これから登録基幹技能者を目指す後輩の方々に対して、コンクリートポンプ圧送マニュアルで継続的な学習に努め、自分が分からない箇所・質問したい箇所について事前に整理した上で講習に臨むよう、お伝えください。

・記述式問題（問題1：13点満点、問題2：7点満点）

昨年度と同様の出題形式としました。

**問題1**は、昨年度と同じ7.5点以上を合格としました。①圧送工事の概要、②その事例での工夫、③圧送を行った結果、④振返りと提言について、項目立てして問い、記述すべき内容がより明確になるように出題しました。講義で学んだ内容や講師から受けた添削指導を反映させ、ご自身の経験を書き綴って頂きました。問われていることに対して、的確に答えることは基幹技能者として必要不可欠な能力です。例年よりも、よく書けていましたが、①～④のそれぞれの記述が及第点に達していないものについては、不合格としました。なお、この**問題1**の①、②で問うたのは、それぞれの圧送工事における「課題の抽出」と「基幹技能者としての工夫」です。本来、これらは、「計画段階で」「事前に」行っておくべきものであり、当日の応急対応ではありません。計画段階において、いかにご自身の知識と経験を発揮できるか、を問うています。その意味で、場当たりのな応急対応だけが記されたものには、高得点を付与していません。

**問題2**は、昨年度と同じ3.5点以上を合格としました。交通事故の防止について、①自分たちでできること、②所属する会社に要望すべきことを、それぞれに分けて問いました。運行前点検、体調管理、アルコールチェック、法令速度の順守のほか、労働時間の削減や安全教育にも言及がなされているものもあり、よく書けていました。ただし、①、②のそれぞれの内容が不十分なもの、文字数が到達していないもの、途中で終わってしまっているものも見受けられ、これらは、不合格としています。

（その他：合否に当たって）

・択一式問題や計算問題で高得点を獲得していても、記述式問題が及第点に及ばず、残念な

がら不合格となった方がいます。登録コンクリート圧送基幹技能者の業務においては、現場や元請への提案力が必要とされることから、認定試験の記述問題では、ご自身の経験や考えを「文章にまとめる力」を判定しています。講習中に配布した文書の書き方の資料を参考に、過去に出題された問題で訓練を重ね、再度のチャレンジに備えてください。

- ・記述式問題で高得点を獲得していても、択一式問題が及第点に及んでいない方もいます。登録コンクリート圧送基幹技能者として必要な知識の習得に務めて頂きたいと思います。

登録コンクリート圧送基幹技能者認定試験の合格者の皆様には、さらなる研鑽を積まれ、第一線での益々のご活躍を期待しています。残念ながら今回、不合格となった方々は次年度に再挑戦いただき、是非とも合格を勝ち取ってほしいと思います。追試験だけでなく、もう一度講習から受け直すことも合格への大きな近道ですので、ご一考をお願いいたします。